2017 年度

高校生国際協力実体験プログラム

報告書

2017年 (平成 29年)

8月9日~8月10日



独立行政法人 国際協力機構 九州国際センター (JICA 九州)

<目 次>

1.	は じ め に	1
2.	高校生国際協力実体験プログラム報告	
	開 会 式	3
	自己紹介・アイスブレイク	4
	国際理解ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」…	5
	青年海外協力隊活動計画作り	7
	国際交流パーティー	9
	青年海外協力隊活動計画発表	11
	ふりかえり・閉会式	13
	参加校一覧・スタッフ一覧	14
3.	添付資料	
	・高校生国際協力実体験プログラム募集要項	17
	・アンケート集計結果(参加生徒・教員)	27

1. はじめに

【事業の結果概要】

1996年より JICA 九州は、九州地区在住の高校生を対象に、開発途上国への理解を深めることを目的とした「高校生国際協力実体験プログラム」を実施しており、今回で22回目を迎えた。本年度は昨年までの2泊3日での2回開催から、1泊2日での1回開催となった。

本年度は九州 7 県から過去最高の 40 校(内 3 校は 2 グループ以上での応募)からの応募があったため、応募書類に関しての選考を行い、15 校を合格とした。結果、計 72 名(生徒57 名、教員 15 名)が本プログラムに参加した。

参加生徒 57 名の内訳としては、約半数の 30 名が 2 年生であった。また、54 名が女子生徒であり、男子生徒の参加は 3 名であった。

事前学習として、各県国際協力推進員が参加校を訪れ、JICA事業の紹介を行った。また参加する生徒達には、プログラム参加前の「国際協力」に関するイメージをウェビング*1により記述してもらい、プログラム後との比較を行った。

プログラムは8月9日および8月10日に JICA 九州にて行なわれた。アイスブレイキングで緊張をほぐした後、国際理解ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」、青年海外協力隊活動計画作り(元青年海外協力隊員による体験談を含む)および計画発表、JICA 研修員受入事業により各国から JICA 九州に来ている研修員との交流等を行なった。

生徒・教員に対するアンケートの結果からは、プログラムに対する満足度が高いことが伺 えた。

生徒達の意見としては、「世界の現状を身をもって体験でき、国際社会のためにもっと協力できることがあれば積極的に関わっていかなければいけないなぁと思いました。」「学校のみんなにも国際協力のことについて知ってもらいたい。そして、今まで興味関心のなかった人にも少しでも知ってもらって、活動に参加してほしい。」「簡単に"問題を解決"といっているが、実際は様々な問題があり、迷路のようで、単純でないことを知りました。」などがあった。2日間の短い期間のなかで、国際協力について深く知り、「将来は青年海外協力隊に参加したい」「絶対に世界の諸問題の解決策を示すことができるような職業に就きたい」といった意見が挙がった。

プログラム全体を通しての参加者の評価は以下の通りである。

【アンケート結果】

・2日間を通してプログラムの内容の満足度は何%でしたか(72名中)

満足度(%)	100 以上	90 ~ 99	80 ~ 89	80 未満
人数	30 人	18 人	18 人	6人

三分の二の参加者が90%以上の満足度を示しており、今回のプログラム内容が充実したものであり、参加者の期待に応えられていたことが伺える。

満足度が100%ではない理由としては、「もう少し積極的に話せばよかった」など、積極的であるがゆえの意見が挙げられているほか、今年度は日程が2日間に短縮されたことで、「すぐにプログラムが始まったので戸惑った」「自己紹介の時間がないままチームを組んでの話し合いだったので、最初はとても話しにくかった」といった意見も多く挙がった。

また、生徒・教員とも、JICA 研修員との時間がもっとほしいという意見が多いが、本来の研修に支障をきたさない範囲で協力してもらう以上、なかなか要望に応えられないところではある。

その他、参加教員からの要望や改善点としては、例年同様、このプログラムの回数を増や してほしいという意見のほか、生徒同様、2泊3日がよかったという意見が挙げられた。

以下、各プログラムの概要と参加者からの意見を記している。多くのプログラムにおいて「知らなかったことばかりで勉強になった」「もう少し時間があれば」といった感想が挙がっている。今後も今回の反省を踏まえながらより良いプログラムを実施していきたい。

※1「ウェビング」

一つの題材・単語(本プログラムの場合は「国際協力」)を中心として、その題材から連想できるものを書き出していき、周りに網の目のように線でつなげていく方法。グループ内での各個人の意見を共有し、課題抽出や課題解決などの計画策定に用いられる手法。



(ウェビングの様子)

2. 高校生国際協力実体験プログラム報告

【プログラム名】

開会式

担当:阿南 栄子 (熊本県国際協力推進員)、和田 仁智 (佐賀県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ プログラムの開会をもって参加への意識を高める。
- ・ プログラムの目的および意義を確認することでより質の高いプログラムを目指す。
- ・ プログラム運営スタッフを紹介し、青年海外協力隊経験者の存在を認識する。

(2) 概 要

「高校生国際協力実体験プログラム 2017」を開催するにあたり、JICA 九州国際センター 所長の植村が開会の挨拶を行った。

JICAが実施している国際協力事業について説明を行った後、本プログラムの意義と、 本プログラム中だけでなく、本プログラム後に参加者へ期待する事について述べた。

開会挨拶後、本プログラムの流れについて、配布資料(スケジュール)をもとに確認を した。その後、2日間を共に過ごすスタッフ(九州各県の国際協力推進員、(特活)九州 海外協力協会職員)が自己紹介をすると同時に、補足説明を行った。

なお、2日間を九州国際センターで過ごすにあたっての注意事項等は事前学習および当日受付にて書面で配布した。



(開会式の様子)



(スタッフ自己紹介)

【プログラム名】

自己紹介・アイスブレイク

担当:森川 大毅(福岡県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ 参加者の緊張をほぐし、本プログラムの導入とする。
- ・ 自分の考えを明確に持ち、発言できる雰囲気作りを行う。

(2) 概 要

学校紹介と、部屋の四隅を使った四択クイズを行った。四択クイズは、提示した写真からイメージを膨らませ、世界の現状について知ってもらうことを目的とした。また、体を動かす活動を通じて、参加者の緊張を緩和し、その後の活動をスムーズに、協働的に行われるための土台作りを行った。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・ 他の県の人や、知らない学校のことが知れてよかった。自分たちの発表は上手くいって良かった。
- ・ 伝えたいことを無駄なく伝えることの難しさや、人をひきつけるプレゼンの仕方は 多様でまだ工夫ができるということを改めて思った。

【教員】

- ・ 学校紹介はそれぞれの特徴がよく出ていて、学校新聞も丁寧に作成されていてとて も楽しく見ることができた。
- ・1分という時間の中で内容をしぼる必要があり、何を選択するかで、校風や生徒にとって最も印象的なものがより明確になった。



(学校新聞を用いて学校紹介)



(部屋の四隅を使ったクイズ)

【プログラム名】

国際理解ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」

担当:森川 大毅(福岡県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ 世界人口を参加者の人数に置き換えて考えることで世界の諸問題について分かりや すく、身近にとらえることができるようになる。
- ・ 世界の現状について知り、多くある課題の中から自分が何の課題に興味を持っているのかを知る。

(2) 概 要

参加者に役割カードを配布し、その役割カードに書いてある内容に応じてファシリテーターの指示に従って動いていった。

<内 容>

- ① 世界の男女比で分かれる。
- ② 世界の年齢、日本の年齢 (子ども、大人、お年寄り) で分かれる。
- ③ 現在、過去、未来の世界の人口で分かれる。
- ④ 大陸ごとに分かれる。
- ⑤ それぞれのあいさつで分かれる。
- ⑥ 文字が読める、読めないグループに分かれて、文字が読めないことを考える。
- (7) 富(所得)の分配について、アメを使って示す。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

・ 道徳の授業などで学習したことはあったが、本で読むのと自分たちで実際に体験するのでは全く違った。



(大陸ごとに分かれる)



(アメを用いて富の分配)

・ 事前に学習してきたつもりでしたが、まだまだ知らないことがたくさんあることに 気付くことができました。

【教員】

- ・ 気負いなく参加できて、だんだんと気づきがでてくるので面白かったです。
- ・ 参加者にとって机上の知識を聞かされるより、体験に基づく話がよりリアリティが あって身近に感じられ、良かったです。
- ・「貿易ゲーム」も面白いので次回はぜひやっていただきたいです。

【プログラム名】

青年海外協力隊活動計画作り

担当:福永 みゆき (鹿児島県国際協力推進員)、茂田 敬介 (長崎県国際協力推進員)

(1) ねらい

青年海外協力隊になりきり、村をよりよくするための活動計画作りを行うことで、

- ① 本当に現地の人びとにとって必要な支援とは何かを考える。
- ② 青年海外協力隊として村人を巻き込んだ計画を立てる。

(2) 概 要

< 設 定>

架空のウェストティモール国バリボ村の村役場へコミュニティ開発隊員として派遣された設定で、2年間の活動計画を作成した。活動内容の要請は「現地の伝統や文化を尊重しながら、共により良い村づくりに協力すること」であるが、まずは、派遣された村の現状や関係者を調査し、地域の良い点・課題点を見出した。それらをもとに活動計画を作成する上での考慮事項として、「実現可能性」「妥当性」「持続性」「独自性」をあげ、4つの観点が翌日に行われる計画発表の評価となることを伝えた。

<形 態>

グループ活動 $(5 \sim 6 \, \text{A} \times 10 \, \text{グループ})$

<内 容>

■導入

- ・ プログラムの全体説明
- ・ コミュニティ開発隊員の説明

■ 村の状況把握・情報整理

- ・ 地図上で村の位置を確認
- ・ 写真から読み取れる村の様子をもとに、気付いたことを書き出す
- ・ リソース分析(村に存在する資源のリストアップ)
- ・ 出た意見をグループ内と全体で共有

■ 実際のコミュニティ開発隊員の活動の事例紹介

・ 体験談発表者:茂田敬介(派遣国:ザンビア)(長崎県国際協力推進員)

■ 村の良い点・課題点の発掘

- ・ 村の概要シートから情報を収集
- ・ 得た情報から良い点・課題点を洗い出し、付箋へ記入

■ 課題点の解決に向けた取り組みの優先順位づけ

- ・ ダイヤモンドランキングを用いて、グループ内で解決事項を順位化
- ・ 課題点の解決案を作成
- ・ 良い点を更に向上させるためのアイディアの書き出し
- ・ 意見を付箋へ記入し、グループ内で共有

■実際の活動計画作成

<設定>の考慮事項を念頭に置き、「活動計画名」「対象者」「協力者」「村の現状」「活動内容」「目指す村の将来のイメージ」を取り入れた計画作り。

■ JICA 事務所(企画調査員)の配置

青年海外協力隊等ボランティアの良き相談相手となり、個々のボランティア業務を支援する企画調査員役を配置した。実際に経験のある JICA 九州の職員に協力を得て、計画作成中の質疑に対応してもらった。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・ 自分たちが青年海外協力隊となり活動の計画を立てるというのは想像以上に大変で、 グループのみんなで「ああでもない」「こうでもない」と一生懸命知恵を振り絞って 書きました。支援をすると言うのは簡単だが、具体的にどうやって、何故それをす るのか?などより深いところまで考えることができた。
- ・ 実際に問題を解決していくことはとても難しいと思いました。また、様々な問題が 複雑に絡み合っている分、あらゆる視点から解決の方法を模索しなければならない と感じました。

【教 員】

- ・写真や調査票で村の詳しい情報を知ることができ、良い所や課題点などを探すのに 大変役立ちました。付箋をダイヤモンド型に貼り付ける方法など「こんな風にグルー プの考えを整理していけば分かりやすいな」と感動しました。グループ皆で協力し て案を出し合っていくのはとても楽しかったです。
- ・他県の先生方とコミュニケーションをとり、より主体的に活動することができた。 青年海外協力隊の「コミュニティ開発」は何となく知っていたが、その考え方や実 例を知るごとに、現場の最前線の感覚が少し分かったような気がした。その村の資 源や問題点をしっかりと観察し、論理的に考える力、現地の人間関係に積極的に入 り周囲を巻き込む人間力、頭も心も体もすべてを使って世界のために働くことに大 きなやりがいを感じた。



(村の課題点の分析)



(活動計画作成~企画調査員への相談~)

【プログラム名】

国際交流パーティー ~研修員の国・文化を知り、世界の料理を味わおう~

担当:三浦 菜津子(福岡県(北九州市)国際協力推進員)、 田代 芽衣(宮崎県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ JICA 研修員との交流を通して異文化への理解を深める。
- ・ 十分に言葉が通じない相手とのコミュニケーションを体験し、コミュニケーション 能力を高める。
- ・ 相手を理解しようとすることの大切さや意義に気付き、それが日常生活へも通じる ことに気付く。
- ・ 世界各国の料理を味わうことで食文化の違いを理解し、また日本食を紹介すること により自国の食文化を振り返る。

(2) 概 要

17名の JICA 研修員が $1 \sim 2$ 名ずつ、高校生の各グループに入り交流を行った後、一緒に食事をした。

< JICA 研修員詳細>

- ① 廃棄物管理技術研修員9名(コース名:J1704198) (アルバニア、バングラデシュ、チリ、エチオピア、スリランカ、ケニア2名、 モロッコ2名)
- ② 再生可能エネルギー導入計画(太陽光発電)研修員8名(コース名:J1704430) (エジプト、カザフスタン、モンゴル、ミャンマー、パキスタン、ウズベキスタン、 アゼルバイジャン、ブラジル)

<内 容>

- ・ 研修事業、JICA 研修員について確認 (YouTube 『研修員受入事業 60 年 日本の経験・ 知見を伝える - ダイジェスト版』)
- · 全体での JICA 研修員紹介
- ・ グループに分かれて各自の自己紹介 高校生は「名前・出身県・年齢(学年)」、JICA 研修員は「名前・出身国・職業」に ついて紹介した。
- ・「JICA 研修員の国について知ろう!日本を紹介しよう!」 JICA 研修員の国について会話・質問を行った。 高校生が持参した写真をもとに会話をしたり、日本についても紹介したりするよう 促した。
- ・「JICA 研修員の国の食事情調査!」テーマ:よく食べている料理 該当する料理について材料や作り方、食べ方や食べるタイミング等について JICA 研修員にインタビューし、聞きとった内容を高校生が模造紙にまとめ、全体に発表

した。(各班1分間で可能な限り英語での発表)

<交流食事会>

- ・ バイキング形式で食事をとって、各班にて食事を食べてもらった。
- ・ 食事終了後、JICA 研修員に一人ずつ、交流パーティーに関する感想を話してもらった。

(3) 参加者からの声

【生徒】

- ・ 外国人である JICA 研修員の方々の、食生活や文化、また食事の食べ方等、知らないことを沢山知ることができて楽しかった。
- ・ 食事を食べる時間が思っていたよりも短かった。もう少し、時間があれば良いと感じた。

【教員】

- ・ 互いに「母語」ではない英語を使用してのコミュニケーションを通して、言語を学ぶことの意義を実感できたのではないか。また、JICA 研修員の人々との交流を通して、異文化を知り、自分に必要な力(英語力、コミュニケーション力)も改めて考えなおすきっかけになったのではないか。
- ・ 普段街を歩いてもなかなか出会うことのできない文化的背景を持った研修員との交流は、生徒たちにとって、とても貴重で特別な経験になったと思う。



(交流会の様子)



(バイキングの様子)

【プログラム名】

青年海外協力隊活動計画発表

担当:茂田 敬介(長崎県国際協力推進員)、福永 みゆき (鹿児島県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・前日のプログラム「青年海外協力隊活動計画作り」にて各グループで作成した青年 海外協力隊としての「活動計画」を発表する。
- ・ 大勢の人の前で発表する経験を通じて、自分の考えを伝えること、相手の話を聞く ことの大切さに気付く。
- ・他のグループの発表で異なる意見を聞くことや質疑応答により、新たな視点を知り、 国際協力に対する理解を深める。

(2) 概 要

活動計画の発表後、生徒10グループの発表に対し評価・投票を行い、その中の上位2グループを表彰した。教員2グループも発表したが、評価・投票は対象外とした。

以下は当日の流れである。

発表前の活動として「ナマステ体操」を行い、緊張を解いた。

① ルールの確認と評価シートの説明

1グループ5分以内で全員が発表し、3分間の質疑応答の時間を設けることを説明した。

発表は村人を対象に行い、質問は青年海外協力隊の立場で発言すること、また、村の背景や計画作成の理由についても触れることを確認した。

投票は、評価シート(評価項目は実現可能性・妥当性・持続性・独自性の4つを5 段階で採点)を参考に行うこととした。

② 活動計画発表

10 分間の発表練習をした後、12 グループ(教員 2 グループ・生徒 10 グループ)が順番に発表を行った。

作成した計画内容は、教育、水質改善、保健衛生、環境教育、栄養改善など様々であり、 計画した活動を現地住民に協力してもらえるような呼びかけをしたり、識字率を考慮 して絵や寸劇を用いた発表をしたりと工夫が凝らされていた。

評価の面で JICA 九州の職員にも協力してもらい、実際の業務に沿った質問やコメントがあった。また、後半になるにつれ生徒間で活発な質疑応答が交わされた。

③ 投票

生徒、引率教員、JICA 九州職員、国際協力推進員が行い、獲得票数が多い順に1位・ 2位のグループを決定し、表彰した。

(4) 講 評

JICA 九州市民参加協力課課長の江頭が、実際の国際協力の現場での事例も紹介しながら、各グループの長所や改善点に言及した。

⑤ まとめ

各校混合でのグループ活動がこの時間で最後になることから、これまでの活動を通 した気付きや学び、感想などをグループ内で共有して、締めくくりとした。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・かなり緊張していたし、きちんと(質問に)答えられたかは正直わからない。ただ 衛生面とか食事とか同じテーマだったとしても、解決方法や視点が違ったりしてか なり面白かった。それぞれの意見を組み合わせたり、工夫したりすればもっと良い 案が出るような気がした。
- ・他のグループの発表が思ったよりすごくて聞いていて緊張しました。印象に残った のは村の人々の気持ちを考えて受入れる様な話し方をしているチームがあったこと です。劇をしているチームは本当に分かりやすかったです。

【教 員】

・ 現状をきちんと分析し、論理的な思考の深まりを感じられた。また多くの人の前で の発表もなかなか経験出来ないことなので、貴重な機会となった。後半になるにつれ、 質問が具体的になっていた。現実にやるということを想定し、発表を聞きながらま た成長しているなと感じた。



(発表の様子)



(質疑応答の様子)

【プログラム名】

ふりかえり・閉会式

担当:阿南 栄子 (熊本県国際協力推進員)、和田 仁智 (佐賀県国際協力推進員)

(1) ねらい

- ・ 2日間のプログラムを振り返ることで学びを整理する
- ・ 今後の学校での取り組みを具体化し、参加生徒が学校でプログラムの成果を波及する

(2) 概 要

<ふりかえり>

学校毎にグループとなり、2日間のプログラムの振り返りを行った。振り返りの趣旨を説明し、事前学習で作成したウェビングに5分で追加記入してもらった。その後、プログラムの体験を学校で活かす取り組みについて話し合ってもらい、宣言書を作成してもらった。最後に取り組みについて、各学校約1分で全体に発表した。

<閉会式>

JICA 九州国際センター次長の高城より閉会の挨拶をした。プログラムを振り返りながら、参加学生や教員の方々を激励し、今後の取り組みについての期待と、伝えることの大切さについて話し、閉会の言葉とした。

(3) 参加者からの声

【生 徒】

- ・ 自分たちがこのプログラムを終えて学んだこと、これからどうしていくべきかを明確にし、さらに宣言することでやらなければならないという意識を高めることができ、認識を共有することができた。
- ・ JICA や青年海外協力隊について参加する前よりも知識が増えている。
- 実際に学校に帰ってどのように広めるか、といった具体的なものが固まった。



(ウェビング)



(今後の取り組みを各学校で宣言)

高校生国際協力実体験プログラム 参加校一覧

< 8月9日(水)~8月10日(木) 生徒57名、教員15名 計72名>

	県	立	高等学校名	生徒	1年	2年	3年	男	女	教員
1	福岡	私立	福岡工業大学附属城東	4	1		3	1	3	1
2	福岡	私立	福岡雙葉学園	3	3				3	1
3	佐賀	県立	伊万里	4	1	3			4	1
4	佐賀	県立	唐津西	4		4			4	1
5	長崎	県立	佐世保西	4		4			4	1
6	熊本	県立	済々黌	4		4		2	2	1
7	熊本	県立	東稜	3		3			3	1
8	熊本	県立	八代	4	4				4	1
9	大分	県立	津久見	4			4		4	1
10	宮崎	県立	延岡星雲	4		4			4	1
11	鹿児島	県立	大島	4	4				4	1
12	鹿児島	私立	鹿児島純心女子	4		4			4	1
13	鹿児島	県立	川辺	4		1	3		4	1
14	鹿児島	県立	武岡台	3		3			3	1
15	鹿児島	私立	鳳凰	4	4				4	1
		小	計(人)	57	17	30	10	3	54	15

プログラム実施スタッフ一覧

	所属	名前	任国	職種
1	福岡県国際協力推進員	森 川 大 毅	大洋州・バヌアツ	小学校教育
2	福岡県(北九州市)国際協力推進員	三浦菜津子	西アフリカ・ガーナ	PC インストラクター
3	佐賀県国際協力推進員	和田仁智	東アフリカ・ケニア	青少年活動
4	長崎県国際協力推進員	茂 田 敬 介	東アフリカ・ザンビア	コミュニティ開発
5	熊本県国際協力推進員	阿南栄子	西アフリカ・ニジェール	感染症対策
6	大分県国際協力推進員	佐 保 好 信*	東南アジア・フィリピン	服飾
7	宮崎県国際協力推進員	田代芽衣	東南アジア・ラオス	看 護 師
8	鹿児島県国際協力推進員	福永みゆき	南 米・ブ ラ ジ ル	日系日本語学校教師
9	(特活) 九州海外協力協会	古泉志保	東アフリカ・エチオピア	コミュニティ開発

^{*}教師海外研修に参加のため、プログラム本番には欠席。

3. 添付資料

高校生国際協力実体験プログラム募集要項





世界・仲間・自分、発見

九州各地の高校生たちと世界を感じる2日間!

「JICA九州 高校生国際協力実体験プログラム」は九州各県から集まった仲間が

1泊2日を共にし、世界と自分とのつながりを体感する、

高校生のための国際協力入門講座です。



事前に知っておこう!

JICA(ジャイカ)とは?

JICA (国際協力機構) は、日本政府の開発途上国への ODA (政府開発 援助)を行う組織です。

青年海外協力隊って?

JICA が実施する海外ボランティア派遣制度です。開発途上国で現地の人たちと生活を共にし、貧困や環境など、その国の抱える課題に取り組みます。

JICA 九州とは?

JICA の九州における国際協力の拠点です。開発途上国から日本の技術を学びに来た人たちのための研修施設もあります。

START

事前学習

各校にて実施します

「国際協力」って なんだろう?

「実体験プログラム」への 参加前に、各地の国際協 力推進員と一緒に国際協 力について考えてみよう。





SUPPORT STAFF

JICA ポランティア 各デスクの国際協力推進員たちが、 プログラム全体をサポートします。





多様な文化に触れる

九州各地から集まった仲間たちと親睦を 深め、日本に研修に来ている開発途上国の 人たちとの交流や世界の料理を楽しもう!

Time Table

10:00~ 開会式 (10分)

10:10~ アイスブレイク、自己紹介 (50分)

11:00~ ワークショップ (90分)

12:30~ 昼休み(60分)

13:30~ 計画作り (210分)

17:00~ チェックイン

18:00~ 交流パーティー(120分)

20:00 終了

青年海外協力隊になる

青年海外協力隊になりきって、自分に何が できるか考えて発表してみよう。現地の人 たちに本当に必要とされる支援って何だ ろう?

Time Table

9:30~ 計画発表(180分)

12:30~ 昼休み(60分)

13:30~ 振返り(35分)

14:05~ 閉会式·写真撮影(20分)

14:25 終了

GOAL

事後学習

各校にて実施します

自分の変化を 伝えよう!

「実体験プログラム」で 感じたこと、考えたこと を表現し、周りの人に 伝えよう。



みんなでとことん考える!



JICAデスク 北九州

(公財)北九州国際交流協会内

TEL093-643-5931

jicadpd-desk-kitakyushushi@jica.go.jp

JICAデスク 福岡

(公財)福岡よかトピア国際交流財団内 TEL092-262-1714

jicadpd-desk-fukuokashi@jica.go.jp

JICAデスク 佐賀

(公財)佐賀県国際交流協会内 TEL0952-25-7921

jicadpd-desk-sagaken@jica.go.jp

JICAデスク 長崎

(公財)長崎県国際交流協会内

TEL095-823-3931

jicadpd-desk-nagasakiken@jica.go.jp

JICAデスク 大分

(公財)おおいた国際交流プラザ内

TEL097-533-4021 jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp

JICAデスク 熊本

(一財)熊本市国際交流会館内

TEL096-359-2130

jicadpd-desk-kumamotoshi@jica.go.jp

JICAデスク 宮崎

(公財)宮崎県国際交流協会内

TEL0985-32-8457 jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

JICAデスク 鹿児島

(公財)鹿児島県国際交流協会内

TEL099-221-6624

jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp





JICA 九州

高校生国際協力

実体験プログラム

グローバルな人材を育てる参加型の「学び」

[国際理解]世界の状況や国際協力の現状に気づき理解を深める。

流] 他校からの参加者や青年海外協力隊経験者、外国人 との交流を通し、様々な価値観に触れる。

[進路・生き方] 自分を見つめ直し、世界の中でどう生きるのか考える ことで、将来の進路選択に役立てる。

日 程

8月9日水・10日木 **2017年 ###は1回

• プログラムの流れ •

事 前 学 習 7月に国際協力推進員が各校を訪問し事前学習 を実施します。日程など詳細については、各地 の国際協力推進員にご相談ください。

本プログラム 2日間の全日程にご参加ください。

事後学習 例年の参加校はプログラム終了後、学校行事や各地の国際交流・国際協力イベントなどで、本プログラムの成果を発表しています。また、参加した経験を活かした「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」への応募も推奨しています。詳細は各地の国際協力推進員にご相談ください。

会 場

独立行政法人

国際協力機構 九州国際センター(JICA九州)

福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1 (JR龐児島本線八幅駅下車徒歩12分) TEL093-671-6311 (代表) www.jica.go.jp/kyushu





参加条件

- ●国際理解教育・持続可能な開発のための教育(ESD)・キャリア教育 に積極的に取り組んでいる学校、又は今後取り組む意欲がある学校。
- 学校長より参加の許可が得られること。
- 生徒の保護者から参加への同意が得られること。
- 生徒が過去に本プログラムに参加していないこと。
- 教員・生徒とも、事前・事後学習を含み、全プログラムに参加可能なこと。選考後の参加者交代は不可。

募集数

- 九州7県から最大15校
- ※1校につき、生徒3~4名(+教員1名)での参加を基本とします。 参加希望校が定数を超えた場合は、応募書類、県のバランス、 新規希望校の優先等を考慮して選考します。
- 最少開催人数:20名

留意事項

- ●昼食および夕食代は各自でご負担ください。 なお、1日目の「国際交流バーティ」会費として、おひとり 1,000円を徴収します。
- 学校所在地からJICA九州までの往復交通費、 宿泊費はJICA 九州が負担します。
- お車での来場はできません。公共交通機関をご利用ください。
- プログラムへの参加にあたり、JICA九州負担にて参加者全員、 国内旅行傷害保険にご加入いただきます。 万一事故が生じた場合、保険の給付範囲内で補償いたします。
- 宿泊はJICA九州宿泊棟となります。
- 動きやすい衣服での参加をお願いします。
- ●個人都合(部活等)によるキャンセルはご遠慮くだい。
- 筆記用具、健康保険証の写し、および緊急時の連絡先をご持参 ください。

応募方法

参加申込書をJICA九州ホームページよりダウンロードし、必要事項をご記入の上、 以下の送付先まで郵送ください。(URL:www.jica.go.jp/kyushu)

送付先

〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館3階 C号室 (特活)九州海外協力協会

応募締切 2017年 6月 7日 ∞ [必着] → 6月 28日 ∞ 迄に結果通知

昨年度参加校実績 福 岡 県 福岡海星女子学院高等学校,福岡雙葉高等学校,京都高等学校,中村学園女子高等学校,福岡工業大学附属城東高等学校

佐賀県 佐賀農業高等学校,武雄高等学校

長 崎 県 佐世保商業高等学校,大村高等学校 熊 本 県 東陵高等学校,南陵高等学校,

大 分 県 別府鶴見丘高等学校,大分豊府高等学校

宮 崎 県 高千穂高等学校,飯野高等学校 鹿児島県 鹿児島純心女子高等学校,明桜館高等学校,武岡台高等学校,鳳凰高等学校

●応募に関する問合せ先 (特活)九州海外協力協会 TEL092-409-6538

JICA 九州高校生国際協力実体験プログラム参加申込書

参加	唏望日程													,	7/27	~7/	28								
ふり	がな																								
高等	等学校名												立									虐	等	学核	É
学校	交住所	TE	X,													F	FAX								
	ふりがな					_	_	_	_																
引	氏名																	旦当 数科						性別	男女
率教師	現住所	₹ TE	L														F	'AX							
		E-M	Iail														抄	耕							
生	ふりがな 氏名																	EL 年		年 4	E.	性	別		
生徒1	現住所	₹																							
	ふりがな																_	EL							
生徒2	氏名	=															一等	年		年生	Ė.	性	別	男	以女
2	現住所																								
	ふりがな																T	EL							
生徒る	氏名							_									学	年		年生	Ė	性	別	身	/女
3	現住所	Ŧ																							
	ふりがな					_		_									_	EL							
生徒4	現住所	Ŧ															学	年 _		轁	Ē.	性	別_	男	<u> </u> /女
ЛС	 	"	(バ) 学校										よ、 道	質と	会社	名を	ご記	入くだ	さい)			·ЛС	'A J	L/H
	公共交通機関	をご利		くた	تخ	<u>-</u>	`		_																
	上記の者が、	JICA	九	M	の 	信	詠	交	生	国	際	協力	力実(体験	プロク	グラム	ム」に	参加	する	ことを	孑	認(ょ	す。	
高等	学校名																E	膊		201	7 4	F	月	E	
学校	長																						E	Ħ	

【個人情報の取り扱いについて】

参加のお申し込みについて入手しました個人情報は、本プログラム実施に係る業務のみに使用いたします。また、当該情報は当機構にて 厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ありません。

送付先: 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-10-34 Mビル 3 号館 3 階 C 号室 (特活) 九州海外協力協会

参加申込書

独立行政法人 国際協力機構

九州国際センター 所長 殿

独立行政法人国際協力機構 九州国際センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。

併せて、引率に当たっては、①九州国際センター在館期間を通して消灯・点呼を初め生徒の生活指導に当たること、②生徒のプログラムや JICA 関係者との意見交換にも積極的に参加すること、③申し込み後の引率者変更をしないことについて承諾します。

なお、旅費については下記の口座(※)にお振込願います。

※口座は学校の公金口座または引率教師の個人口座のどちらでも構いません。

					年	月	日
氏 名:_						-	
生年月日:	年	月	日	年齢:	歳		

振込口座

銀行名		支店名	
口座番号	普通•当座		
ふりがな			
名義人			

*次の質問にお答えください。スペースが足りない場合は別紙に記載してください。
(1)本プログラムへの参加動機を教えてください。
(2)これまでの国際理解教育/開発教育に関する取り組み実績(個人の取り組み)/学校全体での取り組みがあれば記載してください。
CONTROLLE IN CONTROLLE CON
(3) JICA では開発教育支援事業として出前講座、教師海外研修、エッセイコンテスト他のプログラムをご案内していますが、これまでご自身の学校で JICA の開発教育支援事業を活用されたことがあれば活用事例をご紹介いただくと共に、今後の活用計画を教えてください。
(4)プログラムに参加された後、どのような取り組みを検討されているか記載してください。

(5)(昨年度も参加された学校のみにお聞きします)昨年度のプログラムに参加された後に開発教育/国際理解教育促進のために学校としてどのような取り組みをされてきたかを記載してくだ
さい。
さい。
さい。
さい。
さい。
さい。 さい。
さい
さい。
さい。
さい。
さい。
さい。

参加申込書

虫立行政法人国際協定	上 姓战	より日間をよっ	<i>\\ \\ \</i>	∕⋭Г ⋵ Ъ	5.开豆做好	边书宝	· /-
ログラム」の募集要項 す。							
9 0					ė.	H	
					年	月	
申込者氏名	<u>:</u>						_
生年月日	<u>:</u>	年	月	且	年齢:		尿
					EII		
親権者または保護者名	·						
	• <u> </u>						
保護者名	:						

参加生徒の皆さんへ

*3つの質問に一緒に参加するグループでお答えください。

(1)あなたがプログラムへ参加しようと思ったきっかけを自由に書いてください。
(2)あなたの知っている開発途上国や国際協力のこと、もしくはあなた自身が関わっている活動などがあればその活動について、自由に書いてください。
(の) や よっよ だっ のいらっ はこ)) = 中はたよう ファト・ナット・シャー・シャー・
(3)あなたがこのプログラムに期待することを自由に書いて下さい。
けい
申込者氏名:

2017年度 高校生国際協力実体験プログラム アンケート(57名)

1日目(生徒用)

[自己紹介・アイスブレイク]

□ 満足度

	(人)
満足	32
やや満足	23
やや不満	2
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・1分間という短い時間で学校紹介をするのはすごく難しかった。時間に追われてしまい早口になってしまったのが心残りです。しかし、限られた時間で発表をする機会はあまりなかったのでとてもいい経験になりました。
- ・ 事前に学校紹介を準備してこれたのでスムーズに発表ができました。ただ、グループに分かれたときに、数分でいいので個別の自己紹介の時間がほしかったです。
- ・ 初めてだから不安だったけれど、楽に考えるやつだったので、楽しく参加すること ができた。
- ・ 体を動かし、実際の人数で視覚的に考え、学ぶことがとても楽しかった。

[国際理解ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら]]

□満足度

	(人)
満足	40
やや満足	15
やや不満	1
不満	0
無回答	1

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 世界の現状を身をもって体験でき、国際社会のためにもっと協力できることがあれば積極的に関わっていかなければいけないなぁと思いました。
- ・カードを用いて活動することで、世界の現状を知ることができた。特に財を分け合った場面では、先進国と開発途上国(後発開発途上国)との経済格差があまりにも大きいので驚いた。
- ・ 世界では高齢化が進み、人口が偏りすぎていたり、言葉の違い、先進国と後発開発 途上国の貧困の差がすごい。
- ・ 私がまだ知らなかったことがたくさんあって驚きましたが、世界のことを知れてよ

かったです。富の分配のときは先進国と途上国の差に改めて気付きました。だけど先進国の人々はこのことをあまり知らないと考えるととても不満になりました。

・ 立ったり座ったりがとても大変だった。

[青年海外協力隊活動計画作り]

□ 満足度

	(人)
満足	33
やや満足	23
やや不満	0
不満	1

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 短時間で作り上げるのは本当に大変。もっと皆が納得するように作りたかった。
- ・ 以前活動に参加したことのある隊員が体験談を話してくれたことがとても興味深かった。
- ・ 海外協力隊に私達がなったとき、まず現地の情報を知り、問題点・良い点などを出 してから改善するためには・・・などと考えて、いちばんは地域のことについて知 ることが大事なんだと思いました。
- ・ なかなか意見が出てこなくて、おとなしかったな、と思いました。もっとみんなで ガンガン話し合いたかった。問題同士が関連し合っているから、どの問題を最優先 するのか、すごく考えさせられた。
- ・ とても充実していて良かったが、時間が短かった。

[国際交流パーティー]

□ 満足度

 (人)

 満足
 43

 やや満足
 9

 やや不満
 5

 不満
 0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 研修員の方々が話題を作ってくれたり、ゆっくり話したりしてくれたため、とてもいい雰囲気だった。日常生活では、生の英語に触れられる機会は少ないのでとても楽しかった。海外の料理も口にしたことがないものばかりでとてもおいしく、日々できないことができてうれしかった。
- ・ 初めてあんなにたくさんの多国籍の人々と出会いました。伝統的な料理を聞いて皆 に伝えることの楽しさを少し知れました。楽しく過ごせてよかったです。
- ・ コミュニケーションをとるのは難しいけれど、単語とジェスチャーだけでも通じた

- りすることに初めて気付きました。
- ・ せっかく研修員の方とお話できるのに、普通に食事をしていた。私しか質問してい なくて申し訳なかった。みんなが何も言わないなら、もっと話せば良かった。
- □ 今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったこと・明日のプログラムに期待することなど、1日目を振り返って自由に書いて下さい。
 - ・ 初めて会う人ばかりで、年も県も違うところから来た人と仲良くなれるか不安だっ たが、仲良くなれた。
 - ・ 自分以外の高校生がどのような考えを持っているのかを知ることができ、とても勉強になりました。
 - ・ 自分から積極的に動かないとつまらない事に気付いたので、明日のプログラムは積 極的に成功させにいきたいと思う。
 - ・ 青年海外協力隊の計画作りの時間を増やして欲しい。急ぎ足で議論をして、調べ物 をして、模造紙に書くのはとても難しかった。

2日目(生徒用)

[青年海外協力隊活動計画発表]

□ 満足度

(人)

満足	38
やや満足	18
やや不満	1
不満	0

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ 自分たちで途上国の村を発展させるにはどのような対策が必要かなど考えて自分た ちなりにまとめ発表するまでに至れたことに充実感を感じました。
- ・他の班の考えは自分たちでは出なかったものばかりで、様々な人が協力すれば、もっ といい案がたくさん出てくるのではないかなと思いました。
- ・ 同じ村に対する国際協力の活動は色んなアプローチの仕方があるんだということを 知った。課題の要因は非常に複雑である中、各班が工夫しつつ計画を立てていて面 白いと思った。
- ・ 説明しきれなかったり、理路整然と説明できなかったのがとても悔しかったです。 テーマとの関連付けが伝えきれず無念でした。

[振り返り]

□ 満足度

(人)

	(, ,
満足	42
やや満足	14
やや不満	0
不満	0
無回答	1

□ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

- ・ プログラムを通して様々な考えや発想を得たり、今までの考え方が壊されたりと様々 なことを考えさせられる2日間でした。
- ・ 国際協力の知識が全然ない中できたのに、今ではものすごく深いところまで知れた のでとてもよかったです。
- ・帰ってからやることを明確に決めることができ、とてもよかったです。
- ・ 学校のみんなにも国際協力のことについて知ってもらいたい。そして、今まで興味 関心のなかった人にも少しでもいいから知ってもらって活動に参加して欲しい。

□ 2日間を通して、このプログラム全体の満足度は パーセント(%)

(人)

100%以上	24
90-99%	14
80-89%	14
79%以下	5

満足度の理由

【100%以上】

- ・ 自分は大学でも今回やったことを含めて、国際関係(特に世界の諸問題)について解決策を示すことができるようなことをしていきたいので、そのきっかけにとてもなり、今後も JICA のプログラムを体験、または青年海外協力隊としてやっていきたいと思いました。今回のプログラムは自分にとってとても大きなものになったと感じました。(100%)
- ・ 想像以上に自分のためになりました。簡単に発電や食糧問題を解決するといっているが、実際は様々な問題があり、迷路のように単純でないことを知りました。(100%)

(90-99%)

- ・新しい友人と世界で起こっている事を沢山語ることができた。また、自分の思うこと、 考えたことを多く伝えることができたから。とても楽しかった。(95%)
- ・ 国際協力についてよく学べたし、青年海外協力隊は実際にどのようにして活動する のかなど、たくさんのことを知れたから。将来、青年海外協力隊で働きたいと思っ た!! (90%)

・ 1泊2日では足りない。2泊3日くらい欲しかったです。(90%)

[80-89%]

- ・ グループで活動計画をするときに、意見が出尽くして、すごく静かになることがあって、そのときにもっと自分が色々言えれば良かったです。(80%)
- ・ 活動計画発表のポスターを作る時間があまりとれず、満足のいく発表ができなかったです。しかし、多くのことを知れて、将来に活かしたいと思った。(80%)

【79%以下】

・ 英語が思っているより難しくて苦戦した。もっといろんな人と話して友達になりたかった。(70%)

□ 一番印象に残ったプログラムは何ですか。その理由を記入してください。

(人)

青年海外協力隊活動計画作り	17
国際交流パーティー	17
青年海外協力隊活動計画発表	12
国際理解ワークショップ(100 人村)	9
その他	2

[青年海外協力隊活動計画作り]

- ・ いちばんしたかったことだし、深く深く考えることができたから。また、自分だけ でなく班のみんなとも意見交換できて、さらに考えを深めることができたから。
- ・ グループで意見を出し合って、作り上げられたのですごく思い出に残った。

[国際交流パーティー]

- ・ 外国の人と話すという貴重な経験ができ、うれしかったです。ブラジル・モロッコ の人と、互いの国について話すのは少し難しかった。自分の国を説明したいのにう まく話せなくてとてももどかしかったです。しかし、身振り手振りを使って頑張っ て話すと伝わるということが分かってとてもうれしかった。
- ・ 外国人と話せたという事で、これからの英語とかもっと頑張りたいと思えたからで す。

[青年海外協力隊活動計画発表]

・ チーム毎、はじめは見ず知らずの人たちで集まって良い案ができるなんて想像もできるかったけれど、最後の方になるにつれて質問や感想のレベルも上がってきてとても充実したプログラムだったから。

[国際理解ワークショップ(100人村)]

・ 映像を見たりするだけではなく、実際に体を動かしながら視覚的に世界の状況を見 たり、考えることが楽しかった。

□ 最後に何か書きたいこと、伝えたいことなどがあれば自由に書いて下さい。

- ・ 今回のプロジェクトに参加した理由は自分の考えや価値観や世界観を変えていきたいと思ったからです。参加することは不安も沢山ありましたが、本当に今回参加して良かったと思いました。将来私は助産師になりたいと思っていて、その資格を得られたら青年海外協力隊として私も JICA で働きたいと思います!!!
- ・ 高校生でも参加しやすく、分かりやすい内容、そして肌で発展途上国について感じることができた貴重な体験をありがとうございました。
- チャレンジしてみることはとても大切だと思いました。
- ・ 楽しくていい経験ができた2日間でした。

2017年度 高校生国際協力実体験プログラム アンケート(15名)

1日目(教員用)

1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。

[学校紹介]

- ・ 各学校、趣向を凝らした壁新聞はよくできており、また1分間での学校紹介もそれ ぞれの学校の特徴がでており、とても良かったです。
- ・ 各校特徴を時間内に発表するために工夫を凝らしていて良かった。時間内に要点を 説明する練習にもなったと思う。

[アイスブレイク]

- ・ 簡単なものから始めて徐々に今回のテーマへと近づき考えさせる質問になっていた のが素晴らしいと思いました。
- ・もう少し青年海外協力隊ならではの質問を入れ、ABCD に分かれた後にお互い意見 や話し合いができる時間を入れた方が盛り上がりそう。例えば「トイレは和式派・ 洋式派」など。
- ・ グループを作るゲームや、グループで短時間のゲームを行うようなものを入れると、 よりアイスブレイクできるのではと感じた。

「国際理解ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」]

- ・ クイズを用いるなど、講義を受けるだけではない、参加型のワークショップで知識 を深めると共にコミュニケーション能力も高めることができたようです。
- ・数字を見ているだけより、自分が動くことで信憑性が高く体験的に理解することができ、国際理解にはとても面白い活動でした。学校でも文化祭などでやってみたいです。
- ・ シリーズの本を以前読んだが、もっと具体的なものもあったので、高校生向けには さらに内容を増やして、「この現状をどう考えますか」という発問で、オープンエン ドで終わってもいいのかなと感じた。

[青年海外協力隊活動計画作り]

- ・ OB の方のお話を聞き、自分たちが活動する村の情報を得て良い点・問題点と整理し、順位付けし、と取り組み安い流れになっていて、以前参加させて頂いたときよりも 進化していると感じました。ただ、日程が凝縮された分、計画作りの時間が足りな いかなと思いました。
- ・ 生徒だけの力で活動計画作りが行えるよう、上手く配慮されたプログラムになっていた。生徒が目的意識を持つと、こんなにも主体性を持って行動をし、教員が想像していた以上の計画作りを行うのだと感心した。最初にアイスブレイク(自己紹介

を伴ったもの)を入れると、よりスムーズにグループ活動に移行できたのではと思った。特に、教員チームは打ち解けるのに時間がかかったような気がする。

- ・ 教員が各テーブル(生徒)に1人ついて一緒に考えるのもパターンとしてあってもいいかと感じた。
- ・ 昼食後 30 分程度の講話は少ししんどそうだったので、少し活動を入れるなどの改善 を希望します。

[国際交流パーティー]

- · 研修員との有益な時間を共有できたことは生徒の大きな財産になると思います。
- ・ 一生懸命に英語でコミュニケーションを取ろうとする生徒の姿に、実学としての生 きた教育を感じました。
- ・ 世界の方々、また意識の高い方々と交流できる場はとても貴重だと感じました。自 校生徒の英語力をもっと伸ばさねばと痛感しました。
- ・ 生徒たちは程よい緊張感と英語で話す高揚感を持って取り組んでいたように感じま した。私も生徒になって交流したかったです。

[その他]

- ・緊張感あふれる開会から、和やかな雰囲気の交流会まで、生徒のコミュニケーション力を感じることができました。今日一日の研修で、国際理解に関する意識が高まったと思います。自分の事として捉え、積極的に研修に参加する姿が印象的でした。
- ・ 体験させて頂いた活動を学校に持ち帰り、ぜひ実践していきたいと思います。

2日目(教員用)

1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。

[青年海外協力隊活動計画発表]

- ・ グループの中にはロールプレイングをしてより分かりやすく伝えようと工夫しているところもあり、高校生のアイデアと行動力はすごいと思いました。また、プレゼン力や、本当に村人に語りかけるような話し方、質問の返し方なども大人顔負けでびっくりしました。
- ・ 生徒の問題意識が高いことが分かったが、村民からの協力をいかにして得るかという意識を高めていく必要があると思った。
- ・ どのグループもよく計画され、趣向を凝らしたプレゼンテーションだったため、生 徒のポテンシャルの高さに驚いた。グループの中には、先進国が上で途上国が下と 考えているような意見が見られたため、その点の修正はあった方がよかったのでは と感じた。

[振り返り]

- · 事後の宣言をさせるのがとてもよいと思いました。
- ・ 未開な村民に対して先進的な知識や技術を教授するという姿勢は現地の人々に受け 入れてもらえない可能性が高いように思われる。まずはそこで暮らす人々の話を聞 いて様子を観察し、彼らの生活を理解しなければならないと思う。
- ・ 今後の学校での取り組みというのはいちばん時間をかけて考えさせたい部分です。 少し時間が足りず、生徒ももう少し考えたかったのではないかと思います。

2.2日間を通してこのプログラムの満足度は パーセント

(人)

100%以上	6
90-99%	4
80-89%	4
79%以下	1

理由:

- ・ 主体的な活動に重点が置かれていたため。また、教員も参加することで楽しめたため。(100%)
- ・ 活動そのものはとても興味深く勉強になった。それぞれの活動にもう少し時間をかけることができれば100%です。(90%)
- ・ 今後の教育活動に参考にさせて頂きたい多くのヒントを得ることができました。教 員としては大満足です。が、生徒はもう少し英語を使った活動を期待していたようで、 研修員の方とふれあう機会(実際にその方の出身地の課題を聞くなど)がさらにあ ると、なお良かったかと思いました。(80%)
- ・ 2泊3日でもっとがっつり計画作りをするのもありかなと思ってしまいました。(70%)

3. 全体の流れ、時間配分は適切でしたか?

(人)

	(7 4)
とても良かった	5
良かった	00
あまり良くなかった	1
良くなかった	0

理由:

【とても良かった】

・ 一つ一つの活動時間を短く設定することで、プログラムにめりはりがあり、また生 徒の集中力も保てるようになっていたため。

【良かった】

・ 休憩時間が全体的に短くて生徒が少しばたばたしている感じでしたが、流れはとっても良かったと思います。

・ ワークショップがもう少し長くても良いかなと思います。計画作りが少しやりづら そうだった。交流の時間、もう少し欲しいです。

【あまり良くなかった】

・ 一日目のスケジュールがかなり厳しく、移動の疲れが後半出ていたかもしれません。

4. 来年度の高校生国際協力実体験プログラムに向けて、改善点をご記入ください。

- ・ 2泊3日のプランの方が、計画作りなどもっとゆっくり取り組めるのではと思います。
- ・ 1日目のプログラムが少し窮屈に感じました。時間の余裕があると良いと思います。
- ・ 可能であれば年2回の実施。(より多くの生徒が参加できるため)
- ・ 日程の改善(8月前半を希望)。夏休みで完全休校に入っており、参加が難しい生徒がいた。
- · 各県の国際協力推進員との交流の機会があってもよかったと思います。
- ・ 長崎県の学校では8月9日に平和教育を行うため、この日と重ならないと助かります。

5. 今後、事後学習として取り組みたいこと、生徒たちと進めていきたいことを ご記入ください。

- ・ クラス内で、今回の生徒をコーディネーターにワークショップを企画したい。
- ・ 全校生徒への報告会とポスター作り
- ・ 文化祭での発表 (ステージまたは展示)
- ・ まずは校内弁論大会で、今回参加させて頂いた生徒たちにこの経験や思いを語らせたい。
- ・ クラスだけでなく、総合学習の時間等を利用して全校生徒に今回の学びを伝えたいです。また、エッセイコンテストに応募したり、今後もボランティアに参加するなどして国際協力に関わっていきたいです

6. JICA の開発教育支援にどのような役割を期待しますか。

- ・ 出前授業を通じて、国際理解を深める機会を増やして欲しい。より具体的な情報から、 開発計画を立てる経験はとても貴重。
- ・ 国際協力というと、とても特別なことのように考えている子どもたちが多いので、 身近なことから取り組めることなどの啓発活動もして頂きたいです。特に国内でで きることが知りたいです。
- ・ 高校生と世界との架け橋。狭い世界に生きる高校生が、早いうちから世界に触れられる機会をこれからも沢山提供して頂きたいです!
- ・ 普段の生活の中で支援につながるような行動や活動に関する情報提供が増えれば、 開発支援や JICA そのものがより身近な存在になると思います。
- ・ 今回、このプログラムに参加したことで、JICA に対する理解が深まり、国際協力への意識も高まった。なので、JICA と学校とが接触する機会がより多くなるような活動に期待する。

